

pray for peace～哀悼の夕べ～（2016.6.20 国会前）において読みあげられた「哀悼の辞」

今日この場でマイクを持つことを私はずっと考えていました。自分にはふさわしくないんじゃないかと思いました。

今日こそ断ろうかと何度も思いました。けれど、ここで語らせて頂くことにしました。

私には、レイプ未遂の経験があります。その日のことについてとうとう父は一言も語らないまま昨年亡くなりました。母は私の将来を案じ「このことはだれにも言ってはいけない」と言いました。本当に、私のことを心配しての言葉だと、親になった今なら分かります。

それが世間だからです。それを女である母もまたよく分かっていました。そしてその母も亡くなり、その数日前私は女の子の母になっていました。

私が今生きているのは、偶然でしかありません。あの時、犯人が凶器を持っていたら、また、車に乗っていたのが一人ではなかったら、私は今この世にはいなかったでしょう。

おまわりさんは一番最初に言いました。

「その服装でしたか？」

だったら何でしょう？

レイプされるのは、スカートが短いからですか？

髪が長いからですか？

女だからですか？残業で帰りが遅くなったからですか？ウォーキングをしたからですか？

理由は被害者にありますか？

違います。

沖縄ではこれまでのたくさんの女性が被害にあったという事を、ずいぶん後になって私は知りました。

東京ではニュースにさえならなかった多くの女性の命。道端に咲く花のように踏みつけられた心。

どうしていつも、被害に遭うのは女性や子どもなのでしょう。

世が平和でないときに、男たちが勝手に始めた戦争で、利用され、踏みにじられるのはいつも女性です。そしてそれらの多くはいつも無視されてきました。

今まで強姦され殺された女の子たち。女性たち。私はあなたの名前を知りません。

どんな夢を見て、何が好きで、どんな時に笑って生きてきたかを知りません。

けれど、思います。

あなたは私だったかもしれない。

もしかしたら私の小さな娘だったかもしれませぬ。

あなたの白い手が最後に握った土を、最後に見た木々を、空を、私は想像します。

どれだけ怖かったでしょう。

力を振り絞っても抗えないことを悟った時、どれだけの絶望感があなたをおとしめたのでしょうか。

私はその喉の渇きを知っています。人が近付いてくる時の恐ろしさを私は知っています。

ずっと昔、レイプをされたことのある別の女性が言いました。あの十数年前に私は死んだ。なのにまだ生きて苦しまなければならない。殺してくれた方がまだ良かったと。

だけど、私は、やっぱり、彼女に生きていてくれてありがとうございますと思いました。このあまりに軽い言葉をいまだに彼女に言うことは出来ません。

あるのは、ただ黙り込む間抜けな自分の姿です。

今回、沖縄であまりにひどい殺され方をした女性の話を聞いたテレビの前で、私はもう一度、言葉を失いました。あまりに重くて、苦しくて、思いつく言葉も何もありませんでした。

今回沖縄であまりにむごたらしい死を迎えなければならなかった若い命に、それでもやっぱり生きていて欲しかったと私は思います。

あんなことされなければ、基地さえなければ、この先の人生のどこかで私たちは出会えたかもしれません。

基地を止めることができない人たちよ、私たちが会おうはずだった、全ての仲間たちを、私たちに返してください。

彼女たちの夢を、人生を、青春を、どうか私たちに返してください。

米兵は野蛮なんだと、アメリカ人は乱暴なんだという人がいます。

性欲を解消するために性産業を活用すればいいととんでもないことを言った輩もいました。私は怒りに震えます。

彼らはなんにもわかってない！

私は思います。

強姦し、尊い命と尊厳を踏み潰す罪に国籍や人種なんか関係ない。

犯人がなに人だから、ということではなく、これが、戦争なんだということだ、と。戦争の近くに暮らすということがこういうことなんだと。

人間が人間としての良心も感覚も失うのが、戦争なんだと私は感じます。

そして、ヤマトが70年間平和だったと言っている間もずーっと、沖縄の人々は戦争と隣り合わせて生きてきたんです。

家の隣に戦争があるんです。家のドアを開けると、どこにその闇を抱えている人が歩いているのかわからないんです。そんな生活をずーっと沖縄の人たちは押し付けられているんです。

私たちはいつまで無視をし続けますか？

後何人の女性がレイプされ、何人の女性が殺されたら分かりますか？それは私ですか？私の娘ですか？それともあなたの大切な人ですか？沖縄の女性たちの命を、私たちは、いつまで差し出し続けているのですか？

私たちは口には出さないけど「悪いね。生贄になっててくれないか」って、そう、言ってるのではないですか？

もうやめましょうよ、こんな悲しいことの繰り返し、終わりにしましょう。

もう一度言います。

基地が必要だと言う人たち、私が、私たちが会おうかもしれなかった、たくさんの女性たちの命を、どうか私たちに返してください。彼女たちは蝶々になんかなりたくなかった。まだまだやり

たいことがあったはずです。普通に、明日のことを考えて眠りについていたはずだった、その日の時間に彼女たちを返してください。

他には何もありません。

武力が必要だという方たち、どうか、心を取り戻してください。想像する力を失わないでください。対話で解決する人間の智慧を放棄しないでください。

沖縄にも、どこにも、問題を解決するための武力はいりません。

先に逝ってしまった女性の魂たちよ、どうか、天国から私たちを見ていてください。

もう二度と被害者を出さないその気持ちで私たちは動き始めます。どうか力を貸してください。

知恵と勇気を与えてください。

いつかあなたたちのところへ行く時には胸をはってあなたに会えるように、そのためにはこれからどう生きるのか、私達の選択を見守っていてください。

合掌